

乳児期～学童期の問題点

【 生まれた病院についての会話 】

小児科の待合室や保育園で 『 どの病院で出産されたの？ 私〇〇病院なの。あそこの先生優しいよね～ 』 と生まれた病院について聞かれることがあります。養子ですと答えてもいいのですが すべてが望んだ答えが返ってくるとは限りません。距離を置かれることもあります。見ず知らずの方に養子ですと答える必要はありません。方便として生まれた病院を設定してもいいと思います。その方が健全です。

【 子供同士の会話 】

子供は好奇心旺盛ですが 配慮を知らないので時として非常に残酷です。しかも自分の言葉が他人にどんな影響を与えるか想像ができません。他人（友達など）から遠慮ない言葉を言われるとザクザク刺さります。また子供自身にスキルがなくスルーすることができません。また耐性もなく何気ない言葉でも刺さります。しかも他の子供にとってはどの言葉が地雷かもわかりません。『 〇〇ちゃん お父さんお母さんと 顔 似てないよね 』 と言われグサッと刺さります。

【 生まれた病院について 子供同士の何気ない会話 】

子供は無邪気ですが配慮ができないのでとても残酷です。

『 〇〇くんどこで生まれたの？ 』 『 ……僕知らない…… 』 『 それおかしいで 』 『 プっ まじで おまえ拾われたんちゃう ハハハ 』 子供は冗談で軽く言います。相手の子供はどんな影響があるのか理解できません。ですが本人にとっては刺さります。このような場合方便として自分が産まれた病院を設定してもいいのではないのでしょうか。

【 生い立ちの授業と 1/2 成人式 】

小学校の授業には自分の生い立ちについてみんなの前で発表するというカリキュラムがあります。小学校2年生では 『 生い立ちの授業 』 として自分がどこでどのようにして生まれてきたのかをみんなの前で発表します。小学校4年生では 『 1/2 成人式 』 として 生い立ちの回想とともに これまでどのような想いで両親が育ててきたのか そしてこれからどのような目標に向かって成長してゆくのか発表します。ところが 特別養子縁組家庭ではこれらは強制公開カミングアウトになります。そもそも公開して話すような内容ではありません。話をしてしまうと凍りつきます。授業どころではありません。何も知らない一般教員ではとても扱いきれません。あらかじめ対策しておくことが必要です。小学校に入学した早い段階で

- ①子供は養子であるということ
- ②生い立ち教育や1/2成人式について懸念しているということ
- ③そのままカリキュラムを受けると 子供は望んでいないのにみんなの前で強制公開カミングアウトしなければならないということ
- ④教員も取り扱ったことのない事態に遭遇するということ
- ⑤以上のことから カリキュラムを実施するののかも含めてあらかじめ相談することにした。これらについてあらかじめ伝えておく必要があります。その上で学校と協議し対策を立てておけば学校も十分な時間がもらえるので実施するかも含めて用意ができます

【 養子の考えは日々刻々と変化していく 】

養子の考えは成長とともに日々変化していきます。最初は物事が理解できなかった幼い子供でも成長とともに 理解力と表現力が成長し 疑問に思わなかったことを疑問に思うようになります。自分の生い立ちについての疑問に答えることが養親さんの役割になります。しかし全ての情報を何の配慮もなく伝える必要はありません。子供の成長に応じて 話し方や内容に配慮して伝えることになります。

この時期にもし生母さんに会えるようであれば 面会交流できるように話を進めてゆきましょう。養親さんとしては躊躇されるかもしれませんが母子面会交流を開始するチャンスです。ぜひ支援者に相談してください。あるいはそれまで母子面会交流していなくても思春期前であれば開始するチャンスです。生母さんの承諾さえ得られれば写真や手紙からでもいいので開始するようにしてください。子供の疑問や悩みは生母さんと会うことで話をしてもらうことで一気に解決します。心おきなく遠慮なく子供と生母さんを面会させてください。

【 コラム 養子縁組家庭専門のカウンセラーが必要である 】

米国のこの事務所（カウンセリングクリニック）にやってくるクライアント（患者）は全員が養子である。ほとんどが親探しを始める前の養子である。年齢もさまざまである。来所する動機はその年代によって様々である。

成人してからの養子では『 人間関係が空虚 』『 何のために生きているのかわからない 』『 自分は何者でいったいどこへ行くのか 』といった悩みや答えを探してやってくる人が多い。事務所のホームページにはこれらの問いかけ（キーワード）を箇条書きにして掲載している。ホームページをみてそのキーワードに引かれてやってくる人もいる。しかし 養親に連れられてやってくる子供に問題があることもあるが 実は養親自身が悩みを抱えていることがある。養子縁組家庭の場合 すべての人を注意深く見ておく必要がある。

【 問題行動が起こるようになったら 】

子供に問題行動が起こるようになったら 養子特有の問題を疑います。子供が学童期の場合 感情が抑制できない 急に怒り出す 思い込みが強すぎる 極端にいい子ちゃん 極端に反抗的 破滅的 刹那的 など一見 ADHD の様にも見える問題行動起こすようになります。

養親さんは沢山の愛情を注いでいます。しかし子供の中には『 これだけ養親さんが愛情を注いでいるのに どうして私はお母さんに会えないのだろう。私が悪いことをしたからだろうか 』『 お母さんに会いたい 寂しいよう 』『 私には言えない秘密があるんだ やっぱり私は捨てられたんだ 私は要らない子供だったんだ 』という感情から愛着障害が発生します。これらは自分で制御できるものではありません。そして不安を排除したがって完璧でないといけないという行動につながります。そして学校では我慢できても家に帰ると我慢できずに爆発してしまいます。このような性質のためコミュニティから排除されたり衝突したりすることが起きます。

それがすすむと自分とは一体何なんだという自己認識が歪み始めます。『 自分の胸の中にはぽっかり穴が開いている。自分では埋められない穴がなんだ。その穴を埋めるピース（欠片）を探している。その穴を埋めるピースが母親なんだ 』『 私は何者なのか 何のためにここにいるのか 私はどこからきて そしてどこに行くのか 』『 ここは私の居場所ではない 私は連れ

てこられたんだ 母親がいた場所から秘密に連れてこられたんだ 』と言い始めるようになります。もう自分のアイデンティティに疑問を持ちはじめています。ここまでくる前に母子面会交流を開始してください。親探しはどの子でも考える自然な感情です。親を否定しているわけではありません。親が嫌いなわけでもありません。ただ知りたい。それだけです。親が矢面に立って止める必要はありません。